

〔広島県〕

新宮島伝説「守り砂」

松尾 良人（資源エネルギー環境課 課長補佐）

matsuo-yoshito@meti.go.jp

TEL 082-224-5713



神の島とされている安芸の宮島には、その昔、旅人に道中の安全を祈って宮島の砂を持ち帰る習わしがありました。

無事に旅ができた際も、お礼に宮島を訪れたそうです。

旅人は、お守り代わりとしていた宮島の砂と、故郷の砂を混ぜ合わせ、倍返しにしていました。

宮島の砂を粘土に混ぜ込み、器に仕上げ、厳島神社に奉納したものが、宮島の代表的な伝統工芸品「宮島焼」の始まりと言われています。

そのような、「砂」と縁ある宮島で、この言い伝えをモチーフとした、新しいお土産が登場しました。

新宮島伝説「守り砂」



「守り砂」の砂は、西暦 806 年に空海が開基した宮島で最も古い寺院である真言宗大本山大聖院でご祈祷いただいたものです。

同封しております「叶え紙」に願い事を書き記し、「守り砂」と一緒にし、大切に保管。



無事に願いが叶いましたら、再び宮島を訪れて、大聖院の境内にある返納場所へ感謝を込めてお砂を返納します。



▲販売場

「守り砂」の商品化は、産学官ならぬ産・学・観（産業-学校-観光）の連携で実施したものです。



▲返納場



▲御砂のご祈祷



産＝ソアラサービス 学＝広島工業大学 観＝大聖院

[役割] 企画提案 広島工業大学・ソアラサービス

製造 ソアラサービス

販売・返納場 大聖院

デザイン：対馬デザイン事務所



ソアラサービスと広島工業大学の学生とで、昨年からの企画会議を重ね、イメージの試作品を製作。企画書と試作品を持ち、大聖院の吉田住職へのプレゼンテーションを行い、商品化が決定。今年の元旦より大聖院境内に並べられました。



5月には、広島工業大学の学生による宮島商店街イベントを実施。商店街での販売や告知のためのポスター貼りなど、企画制作に関係した学生自身でのPR活動を行いました。

現在、大聖院返納場へは守り砂に願掛けを行った多くの方々より「志望校合格」、「待望の懐妊」など嬉しい報告が届けられているようです。

「守り砂」は宮島島内限定品です。

これからの紅葉の美しい時期、宮島を訪れた際、ご覧になられてみてはいかがでしょうか？

◇守り砂オフィシャルサイト：<http://soa-r.net/mamorisuna/>

◇SO@RモノづくりPJ：http://soa-r.net/mono/products/pu_mamorisuna.html